道
THE SAO RŌM FIDEI
信

AMICI di TAKASHI e MIDORI NAGAI

ARCIDIOCESI DI LUCCA
1726 300 2026

DICASTERO PER L'EVANGELIZZAZIONE

Catholic Archdiocese NAGASAKI

Rassegna Stampa

https://www.diocesilucca.it/thesaurumfidei/

道
THE SAO ROM FIDEI
信

AMICI di TAKASHI e MIDORI NAGAI

ARCIDIOCESI DI LUCCA
1726 300 2026

DICASTERO PER L'EVANGELIZZAZIONE

Catholic Archdiocese NAGASAKI

Nathalie Fourmy

NAGASAKI '45

L'EREDITÀ DI TAKASHI E MIDORI NAGAI

Lucca, Chiesa di San Cristoforo
28 Ottobre-2 Novembre 2026



IN PARTNERSHIP CON

Città di Lucca

Fondazione Italia Giappone 伊日財団

PRERICO

THESAOROM FIDEI 道 信

Fondazione Giacomo Puccini Lucca

Luccacrea

LUCCA60 LEGACY

文化

bunka@nagasaki-np.co.jp

海外から列聖の動き

平和のメッセージ 永井博士没後75年 （上）

今年は長崎原爆で重傷を負いながら被爆者救護に尽力した医師、永井隆博士（1908～51年）の没後75年。カトリック信徒の博士は多くの著書を残し、愛と平和の大切さを訴えた。だが博士の願いに反し、世界は今なお戦火が絶えず、分断が深まる一方だ。「戦争に勝ちも負けもない。あるのは滅びだけである！」「平和を！ 永久平和を！」―。博士の平和のメッセージが今、ますます重みを増す。

■聖人へ調査

「永井博士と妻の緑さんは聖人に値する」―。2020年11月、イタリアの医師や作家らでつくる「永井隆と緑の友の会」は、永井夫妻をカトリックの聖人にする調査をしたいとカトリック長崎大司教区に申し出た。

長崎大司教区は翌年10月、同会に調査を委託した。当時長崎大司教だった高見三明・名誉長崎大司教（80）は「長崎大司教区で調査をするには時間、人手、資金の問題があった」と説明する。

聖人になれば世界に約14億人のカトリック信者から崇敬される。世界のカトリック事情に詳しい日本二十六聖人記念館（長崎市西坂町）のデ・ルカ・レンゾ館長（63）は「聖人になるには現代人にとってキリスト教的な模範になれるかが重要だ」と指摘する。

「現在は永井夫妻の経歴や言動を調べる準備的な調査の段階。正式には長崎大司教区がバチカンに列聖のための審査を申請する必要がある」と話す。

■「如己愛人」

代表作「長崎の鐘」をはじめ永井博士の著書を貫くのは「如己愛人」（己のごとく隣人を愛せよ）の精神だ。博士は妻の命を原爆で奪われながら、恨みや報復ではなく、赦し合うことの大切さを説いた。

「長崎の鐘」は11カ国語に翻訳され、世界中で読まれている。高見さんは「西洋の人は永井博士を賢人と見ている。尊敬の念が非常に強い」と話す。

平和の思想 素直に捉え

永井夫妻の列聖を後押しようと、フランス北西部の小さな村、サン・ドニ・デュ・メーヌでは今年5～6月、夫妻を紹介する展覧会が開かれ、約2千人が来場した。

永井博士は「愛の人は、すなわち勇の人であり、勇の人は武装しない。武装しない人は戦わない」と説いた。来場者の芳名録には「愛するためには勇気が必要だ！」「世界に平和が満ちることを願う美しいメッセージ」といった好意的な意見が多く記された。

展覧会を企画したキュレーターのジャック・シャルル＝ガフィオさんは「現代社会は勇気が大いに不足している。永井博士は困難を乗り越え、自らを襲った過酷な逆境を神への奉献の行いに昇華させた」と博士をたたえる。

■根強い批判

だが、地元長崎で永井博士の列聖運動は盛り上がりを見せていない。そこには根強い「永井批判」の影響が見え隠れする。

永井博士の数々の著書は国民の共感を呼びベストセラーとなった。一方で博士の死後は、博士のいわゆる「燔祭論」を批判する声が強まった。原爆で死亡した浦上地区のカトリック信者は世界平和の犠牲として神のいけにえになったとする宗教的な思想だ。博士の思想が被爆者の怒りの声を抑圧し、米国の原爆使用を免責したと論じられた。

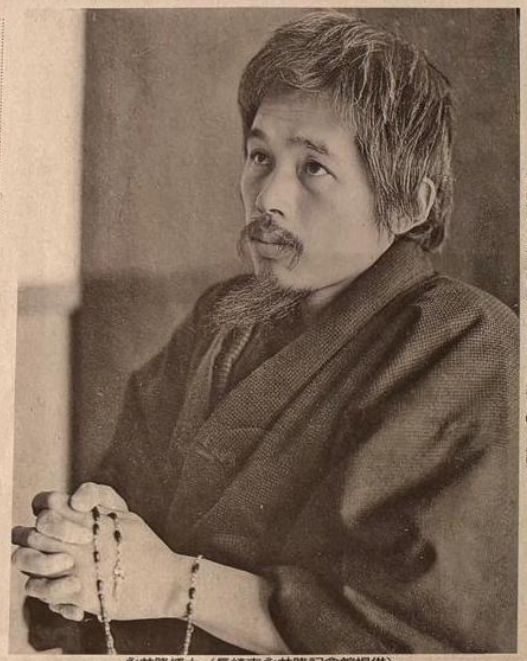
核兵器廃絶のために世界を巡り現地の人と対話している県被爆者手帳友の会の朝長万左男会長（83）は、父の正允さん（故人）が白血病を患った永井博士の主治医だった。父に連れられ訪ねた「如己堂」で博士と会った記憶もある。現在、博士の精神を受け継ごうと結成されたNPO法人「長崎如己の会」会長を務める。

朝長さんは「燔祭論はカトリック信徒に向けた追悼の言葉だ。永井博士が著書で一般国民に訴えようとした平和や隣人愛の思想とは異なる」と語り、こう指摘する。

「海外の人の方が著書を通して博士の思想を素直に捉えている」

（松尾潤）

＝次回は5日掲載＝



永井隆博士（長崎市永井隆記念館提供）

ながい・たかし 1908年2月3日、松江市生まれ。長崎医科大を卒業、放射線科医となる。34年、カトリックの洗礼を受け、森山緑さんと結婚。2児が生まれる。45年6月、白血病と診断される。8月9日、長崎原爆に遭い緑さんを亡くし、重傷を負いながら2カ月にわたり被爆者の救護活動に尽力。46年、同大教授。病が悪化して寝たきりとなり、2畳の家「如己堂」などの病床で「ロザリオの鎖」「この子を残して」「長崎の鐘」など17冊を執筆した。49年、第1号の長崎名誉市民となる。51年5月1日、43歳で死去。



フランスで開かれた永井夫妻を紹介する展覧会の会場（ジャック・シャルル＝ガフィオさん提供）



「永井博士は西洋の人から尊敬されている」と話す高見名誉長崎大司教＝長崎市小瀬戸4丁目、お告げのマリア修道会本部修道院

3 agosto 2026 sul **Nagasaki Shinbun** (Il Giornale di Nagasaki) che parla del processo di beatificazione di Takashi e Midori Il titolo dice: **parte dall'estero il movimento per la beatificazione**

長崎新聞 2026年（令和8年）8月5日 水曜日 紙面編集・入江渚
bunka@nagasaki-np.co.jp

和解促す「赦し」の思想

平和のメッセージ 永井博士没後75年 ㊥

今年で没後75年となった永井隆博士（1908～51年）と共にカトリックの聖人にしようと、妻の緑さん（08～45年）も調査の対象になっている。



妻緑さんも聖人へ調査

■救われた心

緑さんは長崎・浦上生まれ。キリスト教の禁教令下で信仰を守り続けた「潜伏キリシタン」を指導した森山家の一人娘だった。大村女子職業学校（現同陽学園）師範科を卒業して教員になり、実家に下宿した永井博士と出会った。

永井博士の自伝的著書「ひめものを」によると、緑さんは医師として従軍した博士に、カトリックの教義を分かりやすく記した「公教要理」を送り、入信に導いた。

結婚後は主婦として夫を支え、2人の子を育てながら家庭を切り盛りした。永井博士が白血病を患い余命3年と診断されたときは感情を抑え「生きるも死ぬるも天主様の御光栄のために」と励ました。

■どん底でも

永井博士の精神を受け継ごうと活動するNPO法人「長崎如己の会」会長で、長崎原爆青年懇友の会の朝長万左男会長（83）は、博士の



■恨み見せず

ただ、永井博士の著書以外に緑さんを知る資料は極めて少ない。日本二十六聖人記念館（長崎市西坂町）のデ・ルカ・レンゾ館長（63）は「緑さんの調査は難しい。聖人になるためのハードルは高い」と話す。

緑さんは慎ましい性格で上野町の自宅で原爆に遭い亡くなった。永井博士は焼け跡から、まだ温かい骨を拾い、バケツに入れた。

永井博士は「亡びぬものをはじめ数々の思い出を書き残した。深い愛情がひしひしと伝わる。「私たちは傷つき、やがて家ともども焼けてゆくときの、妻の心を思うと、今でも胸が裂けるようです」と綴る悲しみをつづった。

「長崎の鐘」の終章に永井博士は、こう記した。

「人類よ、戦争を計画してくれるな。原子爆弾というものがあるが故に、戦争は人類の自殺行為にかならないのだ。原子野に泣く浦上人は世界に向かって叫ぶ。戦争をやめよ」

本を開けば、今も平和を叫び続ける永井博士の声が聞こえる。

愛犬の解説を担当したのは長崎市在住の弁川貴作家、青来有一さん（67）。永井博士の著作はむろん、博士を批判する論文や当時の新聞など記録類も読みこんだ。

青来さんは「永井さんの著作はたくさんの言語に翻訳され、世界共通の財産として、長崎から世界へ平和を発信するためには非常に有効だろう」と指摘する。

永井博士には聖人というよりも、戦争と平和の中で混乱した道化のようなイメージも抱くという。「永井さんを世界平和のためにうまく押し出したとしても、本人は決して望まないわけじゃなかったと思う」

朝長さんは核廃絶のために世界を巡り現地の人と対話している。「それぞれの国の若者たちが自覚し、核兵器に依存する国のあり方を作り替えないと。その連帯が広がれば20、30年で核廃絶は可能だと思う」と希望を抱く。

「永井博士はどん底でも希望を失わなかった」

■戦争やめよ

岩波書店（東京）は今年6月、永井博士の代表作「長崎の鐘」を文庫化した。担当者によると、同月に発刊した5冊の文庫本の中では好調な売れ行きという。


世界各国の言葉に翻訳された永井博士の著書を示す博士の孫、徳三郎さん＝長崎市上野町、市永井隆記念館

次回は7日掲載

長崎新聞 2026年（令和8年）8月7日 金曜日 紙面編集・西隆志
bunka@nagasaki-np.co.jp

現代に響く隣人愛、希望

平和のメッセージ 永井博士没後75年 ㊦

被爆医師の永井隆博士（1908～51年）は今年で没後75年。原爆で亡くなった妻の緑さん（1908～45年）と共にカトリックの聖人にするための調査が進んでいる。

■複雑な心境

「カトリック信者として、身内として光栄ではあるが…」

永井博士の孫で、長崎市永井隆記念館（上野町）の永井徳三郎館長（60）は永井夫妻の列聖の動きに複雑な表情を見せる。

「若いころの永井は大酒飲みで、言動への批判もあった。本人も自分は聖者ではないと言っている」。徳三郎さんは学校で子どもたちに講話をするなどして、永井博士の「如己愛人」（己のごとく隣人を愛せよ）の精神を伝え続けている。

「人間同士の隣人愛が真の意味での平和につながる。まずは家族をはじめ、自分に関わる身近な人たちを大切にしてほしい」


永井博士直筆の「平和を」のメッセージ。1000枚を書いて知人に配った（長崎市永井隆記念館提供）

■どん底でも

永井博士の精神を受け継ごうと活動するNPO法人「長崎如己の会」会長で、長崎原爆青年懇友の会の朝長万左男会長（83）は、博士の

「戦争は人類の自殺行為」

世界各国の言葉に翻訳された永井博士の著書を示す博士の孫、徳三郎さん＝長崎市上野町、市永井隆記念館

「どん底に大地あり」という言葉に励まされる。

ロシアのウクライナ侵攻や米国・イスラエルのイラン攻撃。核保有国が力を誇示し、エゴむき出しの戦いを仕掛ける。安全保障の手段として核兵器への依存が強まり、被爆地が願う核廃絶の実現は遠のく。

朝長さんは核廃絶のために世界を巡り現地の人と対話している。「それぞれの国の若者たちが自覚し、核兵器に依存する国のあり方を作り替えないと。その連帯が広がれば20、30年で核廃絶は可能だと思う」と希望を抱く。

「永井博士はどん底でも希望を失わなかった」

■戦争やめよ

岩波書店（東京）は今年6月、永井博士の代表作「長崎の鐘」を文庫化した。担当者によると、同月に発刊した5冊の文庫本の中では好調な売れ行きという。

巻末の解説を担当したのは長崎市在住の弁川貴作家、青来有一さん（67）。永井博士の著作はむろん、博士を批判する論文や当時の新聞など記録類も読みこんだ。

青来さんは「永井さんの著作はたくさんの言語に翻訳され、世界共通の財産として、長崎から世界へ平和を発信するためには非常に有効だろう」と指摘する。

永井博士には聖人というよりも、戦争と平和の中で混乱した道化のようなイメージも抱くという。「永井さんを世界平和のためにうまく押し出したとしても、本人は決して望まないわけじゃなかったと思う」

朝長さんは核廃絶のために世界を巡り現地の人と対話している。「それぞれの国の若者たちが自覚し、核兵器に依存する国のあり方を作り替えないと。その連帯が広がれば20、30年で核廃絶は可能だと思う」と希望を抱く。

「永井博士はどん底でも希望を失わなかった」

■戦争やめよ

岩波書店（東京）は今年6月、永井博士の代表作「長崎の鐘」を文庫化した。担当者によると、同月に発刊した5冊の文庫本の中では好調な売れ行きという。

巻末の解説を担当したのは長崎市在住の弁川貴作家、青来有一さん（67）。永

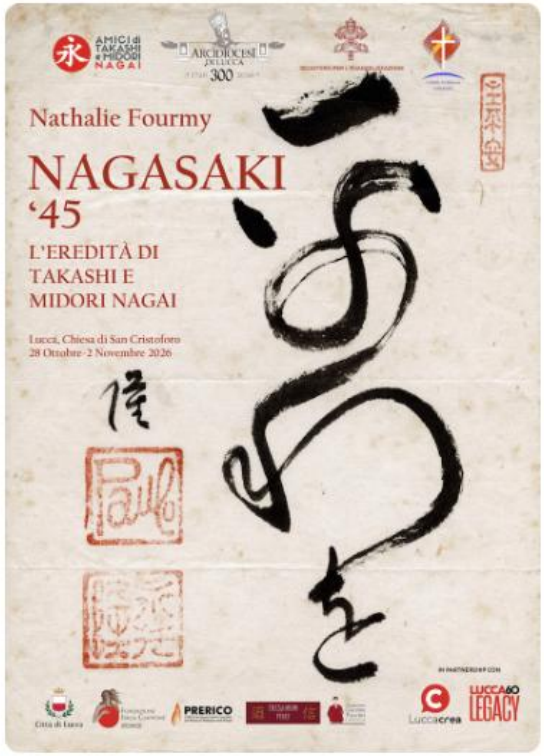
3 agosto 2026 sul **Nagasaki Shinbun** (Il Giornale di Nagasaki)

Titolo (a sinistra) **processo di beatificazione anche per la moglie Midori**
Titolo (a destra) **anche oggi splendono l'amore al prossimo e la speranza**

道
THE SAO ROM FIDEI
信

AMICI di TAKASHI e MIDORI NAGAI

Nagasaki ‘45 – The legacy of Takashi and Midori Nagai

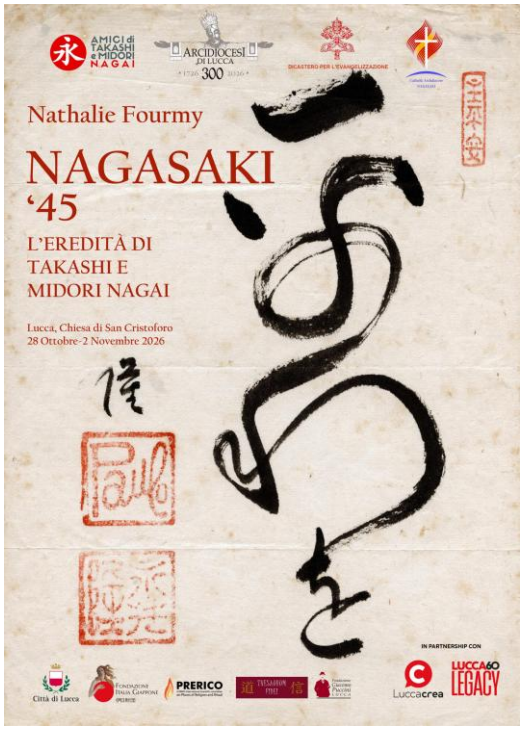


https://amicinagai.com/en/nagasaki-45-the-legacy-of-takashi-and-midori-nagai/

inFormazione Cattolica

NOTIZIARIO D’INFORMAZIONE CATTOLICA INDIPENDENTE

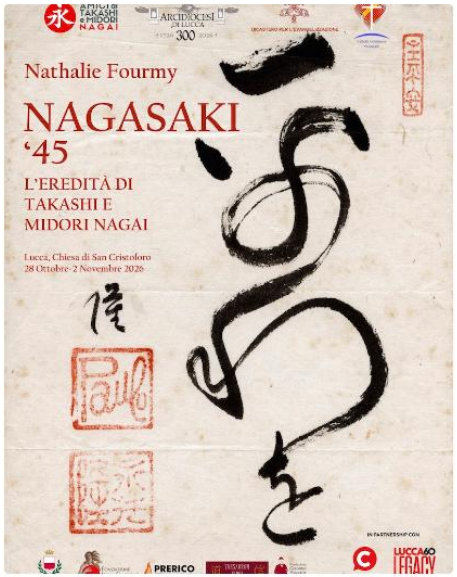
16 ottobre 2026



https://www.informazionecattolica.it/2026/10/16/la-testimonianza-di-fede-e-di-speranza-dei-coniugi-nagai/

AMICI di TAKASHI e MIDORI NAGAI

18 ottobre 2026



Nagasaki '45 - L'eredità di Takashi e Midori Nagai

L'Arcidiocesi di Lucca con il Comitato Amici di Takashi e Midori Nagai

3 dic		ITALIA - Teatro Pime **Nagai, L'uomo che portò la pace a Nagasaki**
28 ott		ITALIA - Chiesa di San Cristoforo - Lucca **Nagasaki '45 - L'eredità di Takashi e Midori Nagai**
19 set		INGHILTERRA - Arrupe Hall, London Jesuit Centre **Ciò che non muore mai**
16 set		ITALIA - Nuovo Teatro Iris **L'audacia della speranza di Takashi e Midori Nagai**
3 lug		ITALIA - Ostuni **Takashi Nagai Paolo, la vita come annuncio**
1 lug		ITALIA - DERVIO **CIÒ CHE NON MUORE MAI**

https://amicinagai.com/calendario-evento/nagasaki-45-leredita-di-takashi-e-midori-nagai/

LUCCA COMICS AND GAMES 2026 Tutto il programma delle proposte legate alla Diocesi

Pace, creatività giovanile e cultura sono al centro degli appuntamenti

Il legame tra spiritualità, cultura e nona arte si rinnova anche quest'anno nel cuore del festival. Sotto il segno del tema conduttore «Legacy», l'Arcidiocesi di Lucca promuove una fitta serie di iniziative che intrecciano creatività giovanile, cammini storici e testimonianze di pace universale, proponendo eventi sia indipendenti sia inseriti nel cartellone ufficiale di Lucca Comics & Games.
Ecco il calendario completo e l'ordine cronologico per non perdere nessuno degli appuntamenti in programma.



Inaugurazione di «Nagasaki '45»

Il sipario sulle iniziative diocesane si alza mercoledì 28 ottobre alle ore 16 nella suggestiva cornice della chiesa di San Cristoforo. Qui, alla presenza dell'arcivescovo mons. Paolo Giulietti, verrà inaugurato il padiglione espositivo «Nagasaki '45», un evento di grande rilievo inserito nel programma ufficiale di Lucca Comics. La mostra è incentrata sulla splendida graphic novel della fumettista francese Nathalie Fourmy (premiata ad Angoulême) e racconta la drammatica vicenda e la straordinaria conversione cristiana del medico sopravvissuto Takashi Paolo Nagai e di sua moglie Midori. L'esposizione gode del patrocinio del Dicastero per l'Evangelizzazione, dell'Arcidiocesi di Nagasaki, del Comune di Lucca e della partnership con Lucca Crea e il progetto Thesaurum Fidei. Il padiglione, proprio nell'inaugurazione, ospiterà anche un momento dall'altissimo valore simbolico: una preghiera interreligiosa per la pace. La mostra resterà visitabile per tutti i giorni di Lucca Comics and Games, cioè fino al 1° novembre. Inoltre, dal 29 ottobre al 1° novembre, tutti i pomeriggi dalle 15.00 alle 18.00 sarà attivo il laboratorio per i ragazzi in compagnia della fumettista Nathalie Fourmy. Il 30 ottobre, alle ore 10.30, alcuni studenti lucchesi presenteranno un gioco sulla storia di Takashi Nagai.

Mostre nella chiesa di San Salvatore

Per tutta la durata del festival, la Chiesa di San Salvatore si trasformerà nel polo artistico e culturale della rassegna. Al suo interno saranno liberamente visitabili due importanti mostre. La prima ospiterà le tavole e le opere in gara dei giovani under 23 per il concorso «Fede e Fumetto», che invita le nuove generazioni a confrontarsi con il disegno sui temi del senso e dei valori. La seconda espressione è la mostra «Francigena – Una via mille racconti», un viaggio visivo a cura della casa editrice Maria Pacini Fazzi che rilegge il patrimonio spirituale e culturale dell'antico cammino pellegrino attraverso lo sguardo e la creatività dei giovani.

Torna «Fede e Fumetto» con un concorso per giovani under 23, due mostre e un dialogo interreligioso. Ma c'è anche il ricordo del dramma della bomba atomica con la storia dei coniugi Nagai presentata con una mostra della fumettista francese Nathalie Fourmy

Premi e ponti interreligiosi

La giornata di giovedì 29 ottobre inizia alle ore 10 nella Sala Tobino di Palazzo Ducale con un prestigioso evento ufficiale del festival: la presentazione del volume «Eredi dei profeti», edito dagli indiani «40 Sufi Comics» e per la prima volta in Italia. L'incontro, promosso dalla Fondazione Metamorfosi Ets con la Coreis e l'Arcidiocesi, vedrà dialogare Luisa Locorotondo (Conferenza Episcopale Toscana) e l'Imam Yahya Pallavicini per dimostrare come il fumetto possa abbattere i pregiudizi e farsi spazio di incontro interreligioso. Successivamente, alle ore 12, ci si sposterà sulle Mura Urbane (presso la Cortina Santa Maria) allo stand dell'Ufficio Scolastico Territoriale «Scuola in Comics 2026» per la tanto attesa cerimonia di premiazione dei vincitori del concorso. Nel pomeriggio, alle ore 16, si tornerà nella chiesa di San Salvatore per la solenne inaugurazione della mostra sulla Via Francigena alla presenza di mons. Giulietti.

Nel Salone del Palazzo arcivescovile

Venerdì 30 ottobre alle ore 16, il Salone del Palazzo Arcivescovile aprirà le sue porte per ospitare la presentazione del libro «Un prof di nome Gesù» firmato dallo scrittore fiorentino Andrea Manetti. Stessa location per altri appuntamenti. Sabato 31 «Perché Lucifer ci sta più simpatico di Dio?» con Salesalato (blogger di apologetica cristiana). Domenica 1 novembre ore 18 «One piece. Un manga da Dio» a cura di Cattonerd.

ALTRO SERVIZIO A PAGINA 19 DEL FASCICOLO REGIONALE

21 Ottobre 2026

Nagasaki '45



L'eredità di Takashi e Midori Nagai

È il 9 agosto 1945, ore 11.02, quando l'ordigno al plutonio noto come "Fat Man" viene sganciato sulla città di Nagasaki, nell'isola di Kyushu, a sud del Giappone. Solo tre giorni prima un altro ordigno al plutonio, denominato "Little Boy", aveva distrutto anche la città di Hiroshima. Ferite non rimarginabili, che hanno segnato la storia non solo del Giappone, ma dell'intera umanità, e sulle cui conseguenze, ancora oggi dopo oltre 80 anni, continuiamo ad interrogarci. Eppure, tra quelle tenebre oscure si sono accese delle piccole, ma energiche luci, che mostrano la possibilità di affrontare enormi prove con coraggio e tenacia, rendendole nuove esperienze di vita, tappe del grande travaglio umano verso un mondo più giusto.

L'**Arcidiocesi di Lucca** con il **Comitato Amici di Takashi** e **Midori Nagai** promuove un'importante iniziativa nell'ambito del tema **"Legacy"** di Lucca Comics & Games 2026 presentando al pubblico la testimonianza di fede e di speranza dei coniugi Nagai, profondamente segnati dalle vicende del 9 agosto 1945. Il progetto è patrocinato dal Dicastero per l'Evangelizzazione, dall'Arcidiocesi di Nagasaki, dal Comune di Lucca e in partnership con Lucca Crea (Lucca) e il progetto Thesaurum Fidei.

https://lucca2026.luccacomicsandgames.com/it/mostre/nagasaki-45

道
THE SAO ROM FIDEI
信

TOSCANA OGGI.it

23 ottobre 2026

Lucca Comics and Games 2026, le iniziative dell'Arcidiocesi

23 Ottobre 2026 - 10:37

La sessantesima edizione di quest'anno si svolge dal 28 ottobre al 1° novembre



Nei giorni della sessantesima edizione di Lucca Comics and Games, sotto il segno del tema conduttore «Legacy», l'Arcidiocesi di Lucca promuove una fitta serie di iniziative che intrecciano creatività giovanile, cammini storici e testimonianze di pace,

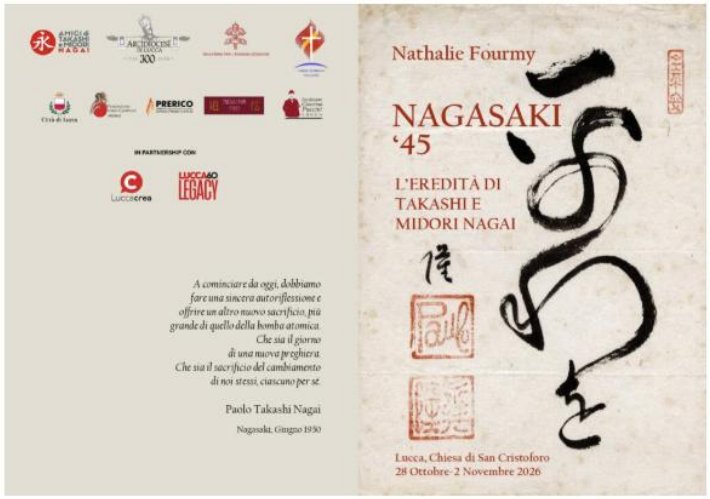
https://www.toscanaoggi.it/lucca-comics-and-games-2026-le-iniziative-dellarcidiocesi/

ARCHITETTURA SACRA
LETTURE, PROGETTI E ELEMENTI

Eventi | LA DIMENSIONE DEL SACRO | LETTURE | LO SPAZIO SACRO

NAGASAKI '45 L'EREDITÀ DI TAKASHI E MIDORI NAGAI. Lucca Comics & Games 2026 "Legacy"

By **Patrimonio Culturale Religioso** 8 Ottobre 2026 174



È il 9 agosto 1945, ore 11.02, quando l'ordigno al plutonio noto come "Fat Man" viene sganciato sulla città di Nagasaki, nell'isola di Kyushu, a sud del Giappone. Solo tre giorni prima un altro ordigno al plutonio, denominato "Little Boy", aveva distrutto anche la città di Hiroshima. Ferite non rimarginabili, che hanno segnato la storia non solo del Giappone, ma dell'intera umanità, e sulle cui conseguenze, ancora oggi dopo oltre 80 anni, continuiamo ad interrogarci. Eppure, tra quelle tenebre oscure si sono accese delle piccole, ma energiche luci, che mostrano la possibilità di affrontare enormi prove con coraggio e tenacia, rendendole nuove esperienze di vita, tappe del grande travaglio umano verso un mondo più giusto.

https://architetturasacra.org/nagasaki-45-leredita-di-takashi-e-midori-nagai-lucca-comics-games-2026-legacy/

LA NAZIONE

24 ottobre 2026

Dalla Francigena a "Nagasaki '45"

Tanti appuntamenti legati al mondo della religione. Il cartellone degli incontri promossi dall'Arcidiocesi.



Monsignor Paolo Giulietti, arcivescovo di Lucca, sarà presente a diversi appuntamenti di Lucca Comics

https://www.lanazione.it/lucca/cronaca/fede-e-fumetto-dalla-francigena-88699aa8

sir

24 ottobre 2026

APPUNTMENTI

Lucca Comics: anche l'arcidiocesi partecipa con una serie di eventi sul tema "Legacy"

23 Ottobre 2026 @ 19:30

Nei giorni della sessantesima edizione di Lucca Comics and Games l'arcidiocesi promuove una serie di iniziative a tema "Legacy". Il calendario si apre mercoledì 28 ottobre alle 16 nella chiesa di San Cristoforo, dove, alla presenza dell'arcivescovo Paolo Giulietti, verrà inaugurato il padiglione espositivo "Nagasaki '45". La mostra, incentrata sulla graphic novel di Nathalie Fourmy, racconta la vicenda dei coniugi cristiani Takashi Paolo Nagai e sua moglie Midori, duramente segnati dalla bomba atomica sganciata sulla città. L'inaugurazione ospiterà una preghiera interreligiosa per la pace e la mostra resterà visitabile fino al 1° novembre. Durante tutta la manifestazione sarà possibile visitare,

https://www.lanazione.it/lucca/cronaca/fede-e-fumetto-dalla-francigena-88699aa8

ARCHITETTURA SACRA
LETTURE, PROGETTI E ELEMENTI

26 ottobre 2026

THESAURUM FIDEI racconta PAOLO TAKASHI E MIDORI NAGAI

By **Patrimonio Culturale Religioso** 26 Ottobre 2026 33



"**Thesaurum Fidei**" è il progetto internazionale di ricerca culturale e scientifica promosso dall'Arcidiocesi di Lucca e attivo dal 2022.

Ideato e curato da **mons. Paolo Giulietti** (arcivescovo di Lucca) e da **Olimpia Niglio** (professoressa dell'Università di Pavia e presidente della commissione ICOMOS "Places of religion and rituals"). https://www.diocesilucca.it/thesaurumfidei/ l'iniziativa è nata per riscoprire e valorizzare la storia delle missioni cattoliche in Giappone a partire dalla metà del XVI secolo, con un focus speciale sul legame storico tra il territorio lucchese e il Paese del Sol Levante grazie al missionario, il Beato Angelo Orsucci nato a Lucca nel 1573 e morto martire a Nagasaki nel 1622.

https://architetturasacra.org/2483-2/

LuccaInDiretta

28 ottobre 2026

L'EVENTO PIÙ ATTESO | CULTURA E SPETTACOLI

La Diocesi ai Comics, in San Cristoforo inaugura il padiglione 'Nagasaki '45'

27 Ottobre 2026 | 23:58

in Redazione



https://www.luccaindiretta.it/cultura-e-spettacoli/2026/10/27/la-diocesi-ai-comics-in-san-cristoforo-inaugura-il-padiglione-nagasaki-45/526675/

TOSCANA OGGI.it

28 ottobre 2026

Lucca

Lucca Comics: la chiesa di san Cristoforo ospita il padiglione "Nagasaki '45"

27 Ottobre 2026 - 11:27

La mostra ispirata alla graphic novel di Nathalie Fourmy esplora i temi della speranza, del disarmo e della solidarietà. L'inaugurazione si terrà mercoledì 28 ottobre alla presenza dell'Arcivescovo Giulietti



https://www.toscanaoggi.it/lucca-comics-la-chiesa-di-san-cristoforo-ospita-il-padiglione-nagasaki-45/

sir

28 ottobre 2026

Diocesi: Lucca, domani mons. Giulietti inaugura con una preghiera interreligiosa il padiglione "Nagasaki '45"

27 Ottobre 2026 @ 12:23



https://www.agensir.it/quotidiano/2026/10/27/diocesi-lucca-domani-mons-giulietti-inaugura-con-una-preghiera-interreligiosa-il-padiglione-nagasaki-45/

Al Lucca Comics la fede dei coniugi Nagai e l'olocausto atomico a Nagasaki

Nel 60mo della rassegna in mostra al padiglione Nagasaki '45 "l'eredità" del dottor Takashi e sua moglie Midori, discendente dei cristiani nascosti morta nell'esplosione. Una graphic novel della vignettista Nathalie Fourmy ripercorre la loro storia di fede e speranza. Paola Marenco: messaggio attualissimo nel mondo di oggi.

di Dario Salvi

GIAPPONE 28 ottobre 2026



28 ottobre 2026

PIME asianews

https://www.asianews.it/it/asia-orientale/giappone/al-lucca-comics-la-fede-dei-coniugi-nagai-e-l-olocausto-atomico-a-nagasaki

道
THE SAO RÖM FIDEI
信

8 novembre 2026
Della PIANA DI LUCCA, VERSILIA e VALLE DEL SERCHIO
Toscana in CAMMINO
TOSCANA OGGI
Via Arcivescovado 45 - 55100 Lucca tel. 0583 430948 fax: 0583 430949 e-mail: incammino@toscanaoggi.it
Notiziario locale Direttore Simone Pitossi Coordinatore diocesano Lorenzo Maffei Reg. Tribunale Firenze n. 3184 del 21/12/1983

8 NOVEMBRE 2026

Nagasaki '45, mostra di successo



Qui un momento della inaugurazione, sotto il taglio del nastro con Nakamura e Giulietti, in basso l'autrice Fourmy

L'esperienza del medico giapponese Takashi Nagai segnata dalla bomba atomica di Nagasaki è un esempio di quanto anche nelle più grandi tragedie si possano accendere piccole fiammelle di speranza.
Questo è uno dei molteplici messaggi che ha voluto trasmettere il padiglione espositivo «Nagasaki '45», allestito nella chiesa di san Cristoforo a Lucca dall'Arcidiocesi e dal comitato «Amici di Takashi e Midori Nagai» rappresentata da Paola Marenco nei giorni di Lucca Comics&Games2026. Il fumetto della francese Nathalie Fourmy è il mezzo con il quale l'esposizione ha parlato della storia dei coniugi Nagai ai visitatori. E sono stati tanti a entrare durante tutta la manifestazione, alcuni ne sono rimasti talmente colpiti da uscirne commossi. I libri con i fumetti sono stati venduti tutti, insomma è stato senza dubbio una proposta di successo.



All'inaugurazione, coordinata da Olimpia Niglio, delle ore 16 di mercoledì 28 ottobre erano presenti autorità civili e religiose della città, ma non solo. Da evidenziare gli ospiti dal Giappone, l'arcivescovo di Nagasaki mons. Nakamura e l'ambasciatore presso la Santa Sede Koji Abe. L'arcivescovo Paolo Giulietti nel suo saluto ha portato il messaggio del Pro-Prefetto del Dicastero per l'Evangelizzazione mons. Rino Fisichella: «Attraverso la cultura, l'arte e la testimonianza della fede si offre un contributo prezioso affinché una storia nata dal dolore continui a generare speranza. Che questa mostra non sia soltanto un'occasione per ricordare, ma anche un invito a lasciarsi interpellare affinché ciascuno possa diventare nel proprio momento di vita costruttore di pace e testimone di speranza». Presente anche il presidente di Lucca Crea Nicola Lucchesi, che così si è espresso: «La nostra connessione con l'arcidiocesi di Lucca dimostra che il fumetto unisce mondi diversi, la storia di vita di Takashi Nagai davvero ci dà la forza di continuare a lavorare per un mondo migliore».
A porgere saluti anche l'assessore al bilancio del Comune di Lucca Moreno Bruni e il direttore della Fondazione «Giacomo Puccini» Luigi Viani. A chiusura dell'inaugurazione la preghiera interreligiosa alla presenza di esponenti di varie fedi, i quali hanno simbolicamente rintoccato la campana allestita all'interno della chiesa. Campana che ogni mattina, per tutti i giorni di Lucca Comics and Games alle ore 11.02 è stata suonata in memoria dell'esplosione della bomba atomica su Nagasaki avvenuta appunto alle 11.02 del 9 agosto 1945.

A.G.

NATHALIE FOURMY L'autrice racconta come è nato «Nagasaki '45»

«È la mia prima opera, Takashi Nagai è un santo»

Potremmo dire che tutto è nato per caso. Ma si sa, i segni arrivano quando uno meno se li aspetta, anche quelli che proprio al caso non rispondono. Nathalie Fourmy, l'autrice della graphic novel «Nagasaki '45», lo racconta con semplicità: «Avevo ordinato online un libro sui samurai per fare un regalo a mia sorella, che è appassionata di queste storie. Un errore di spedizione mi ha fatto arrivare un libro sulla storia di Paolo Takashi Nagai. Ho iniziato a leggerlo, non troppo convinta, ma fin da subito ho sentito dentro di me, chiaro, che dovevo far conoscere questa storia di pace, amore e speranza». In quel momento, nel 2016, Nathalie lavorava presso il Santuario di Lourdes, con alle spalle una conversione al cristianesimo arrivata in età adulta. «Terminato il libro ho pensato: Takashi è un santo, ma è come noi, come tutti noi potremmo essere. Cosa posso fare per diffondere la sua storia? Posso disegnare, mi sono detta, anche se non avevo mai affrontato un lavoro del genere. Ho dovuto documentarmi, studiare e poi disegnare. È la mia prima opera. In precedenza, infatti, avevo messo a disposizione il mio saper disegnare solo per piccole cose dedicate ai bambini». Ci sono voluti però anni per vedere nascere quest'opera. A lavoro finito, infatti, trovare una casa editrice disposta a investire su una storia del genere non è stato semplice. È la storia di un medico giapponese ateo che sposa una cristiana, Midori, e successivamente si converte. A seguito della bomba atomica resta vedovo e si prodiga per ricostruire la città. Quando muore, migliaia di persone, di ogni credo e convinzione, partecipano ai suoi funerali: il segno di un affetto che Nagasaki, ancora oggi e a oltre ottant'anni di distanza, gli riconosce. Nathalie, peraltro, non è mai stata in Giappone; per puro caso – per tornare ai segni – ha conosciuto la storia di questa persona e si è avvicinata alla cultura e alla sensibilità di quel Paese, elaborando un fumetto davvero semplice e toccante che solo nel 2024 viene edito in Francia. Niente è lasciato al caso e persino i membri del comitato «Amici di Takashi e Midori Nagai» ne hanno riconosciuto il valore, non solo per l'autenticità dei fatti raccontati e il rispetto per la biografia effettiva, ma soprattutto per il messaggio toccante e delicato, tanto da volerne una traduzione in italiano dall'originale francese. «È stato tradotto anche in ceco – ci dice Nathalie – e forse il prossimo anno lo sarà anche in inglese». Nathalie ne parla non come fosse un progetto editoriale, ma quasi come del naturale evolversi di un disegno più grande: «La bellezza, non l'efficienza, è importante», dice. Il suo sguardo sulle cose del mondo, anche quelle più piccole ritratte nella sua opera, tradisce – in senso positivo – un'attenzione e una profondità che non lasciano indifferenti. Molti, dopo aver visitato la mostra, hanno chiesto una sua firma sulla copia di «Nagasaki '45» (IPL Edizioni), alcuni visibilmente commossi per i contenuti dell'esposizione e per una storia conosciuta per la prima volta.



Lor.M.

道
THE SAO RŌM FIDEI
信

AMICI di TAKASHI e MIDORI NAGAI

ARCIDIOCESI DI LUCCA
1726 300 2026

DICASTERO PER L'EVANGELIZZAZIONE

Catholic Archdiocese NAGASAKI

Rassegna Stampa

https://www.diocesilucca.it/thesaurumfidei/